

蒼生

そう せい

2023年
1月号

新年あいさつ

院長 森末正博



だけでなく地方ではさらにむずかしくなってきたりします。

トーナメントの大活躍を見ると選手1人1人が全力で活躍することが結果に結びついたと思います。目の高い壁を乗り越えて決意をあらわす。今年も昨年以上にハードワークが必要となる場面が増えることが予想されます。組織の1人1人の全力の活躍と、思いやりのある連携が必要です。その仕事の成果には、それ相応の患者さんの笑顔と達成感に加えてそれに見合った報酬がいてくるはず

新年あけましておめでとうございます。今年は昨年来の新型コロナウイルス感染症第8波の拡大のさなか新年を迎えることとなりました。全国の医療機関におきましても新型コロナウイルス感染症と格闘をはじめ、年末年始を挟んで死者の増加傾向が続いております。さらに新たな感染力の強い変異株（オミクロン株の派生型 XBB.1.5）の出現、季節性インフルエンザとの同時流行が予想されるなど、今後の感染の動向はなお予断を許しません。今まで以上に感染予防策の原則に立ち返り、スタッフ一人一人が全員活躍していただいております。このように3年にわたる感染症の流行の中で従来の感染症・慢性疾患・救急疾患の患者さんへの対応が都市部

の引き下げの検討を進めていますが、今年に入り国内感染者は20万3393人が確認され、新型コロナウイルスによる死亡者も1日当たり520人と初めて500人をこえる事態となり、年末年始を挟んで死者の増加傾向が続いております。さらに新たな感染力の強い変異株（オミクロン株の派生型 XBB.1.5）の出現、季節性インフルエンザとの同時流行が予想されるなど、今後の感染の動向はなお予断を許しません。今まで以上に感染予防策の原則に立ち返り、スタッフ一人一人が全員活躍していただいております。このように3年にわたる感染症の流行の中で従来の感染症・慢性疾患・救急疾患の患者さんへの対応が都市部

したがって2024年と期限をもうけて進める国の地域医療構想の実現・医療者の働き方改革の在り方もあまり現実的とは言えません。それぞれの地域に応じた適切な医師・看護師数、適切な病床数に関して国は十分計算しつくしていると思いますが、既存の病院の統廃合にしろ、感染対策も含めた余裕のある人員・病床を考慮する必要があります。しかし、それぞれの地域の実情に応じた病床機能の構築には今すぐとはいかず数年の間が必要と思われます。この度の新型コロナウイルス感染症対策病床の運用のデータ分析により今後のこの地域における感染対策の人員・病床数の最適化が実現可能となるでしょう。

引き続き昨年と変わらぬご指導ご支援のほどよろしくお願いたします。

インフルエンザと同等の5類への患者さんへの対応が都市部

の患者さんへの対応が都市部

カップでの日本の予選・決勝

願いたします。

音楽と楽器の話

名誉院長
飯島崇史

2019年12月中国武漢市で新型肺炎が集団発生し、瞬く間にパンデミックとなった。その昔1918年にスペイン風邪が流行したとき、第一次世界大戦の戦死者を上回る3400万人（1700～5000万人）の死者、感染者5億人（当時の人口の27%に達したという。当時アメリカの女の子たちはこんな縄跳び歌のわらべ歌をうたっていた。「私の小鳥の名前はエンザ。窓を開けたらエンザが飛び込んできた。In-flew-Enza（インフルエンザ）。このときはインフルエ

ンザであったが、今回はコロナウイルス感染症と判明し、3年が過ぎようとしている。未だ終焉は見えず社会経済活動は著しく制限されていく。食事も集会も過去の自由にできなくなった。音楽会もしかりである。しかし最近になって感染に留意しながら、コロナと共存という考えに移行してコンサート再開の傾向となった。嬉しい限りである。早速参加申し込みをした。まず9月、中村滉己の津軽三味線演奏会に。まだ19歳と若手だが、彼は小学生の時から津軽三味線の全日本大会優勝者として君臨しており、深淵としたその演奏は、かつての全盲の名手高橋竹山の枯れた味とは異なる力強さを感じさせる。さらに後半の第二部ではハチャトリアンの「剣の舞」など西洋音楽の高難度曲を、ピアノとの共演で津軽三味線曲として演奏して見せた。しかし技術、こ

ろみは良しとしても、個人的な意見としては、奇をてらうより津軽じょんがら節、あいや節など伝統的な三味線曲の方が似合っていると感じたのは私だけだったのだろうか。

次に木越洋のチェロで「バツハの無伴奏チェロ組曲1～6番全曲を聴いた。観客が少なく演奏者に申し訳なさを感じたが、チェロ独特の低く深みのある楽器の音の響きがホール

の曲でのつのパルティータ（クラヴィーア練習曲第1巻第1番～第6番それぞれ7～6つの舞曲で構成されている。話がマニアックとなり、お叱りを受けそうだが、小生、元来バロック音楽は嫌いではない。ヴィヴァルディ、スカルラッティ、ラモ、クープラン、ヘンデルなど。なかでも音楽の父と呼ばれる「バツハは音楽性もさることながら、理論も群を抜いており、質量ともに素晴らしい。教会のオルガン奏者から出発したとのこと。西欧ではグレゴリオ聖歌、日本では仏教の声明（しょうみょう）が男声合唱の原点と思われるようだが、（聴く者にとつて心に染み入る感じがするが、時に音程の外れる僧侶がいて聞き苦しいことがある）宗教と音楽は関係が深いといえよう。今でこそバツハの偉大さを疑う者は

いないが、当時の知名度はヘンデルのほうがはるかに上であった。1717年ケーテンの若き君主レーオポルト侯の宮廷楽長としてフルート、チェロ、ヴァイオリンのための無伴奏独奏曲群を書き上げた。いずれも、たった一人の奏者よって奏でられているとは考えられないような音の奥行と広がりを感じさせる画期的な作品となっている。そんなバツハでも若くしてドイツを飛び出し、イギリスで活躍していたヘンデルにあとを追った形跡がある。ヘンデルは宗教芸術オラトリオの大家であった。バツハはヴィヴァルディの流麗な音楽に惹かれたのに対し、ヘンデルは一世代前のコレリの様式を引き継いでいる。

さてチェンバロ（独）ハープシコード（英）であるが、

ピアノの前身としての鍵盤楽器で、弦を爪で弾いて音を出すため音の強弱が表現しにくく音量が小さい。この欠点を改良したものに19世紀前半に皮で覆われたハンマーで弦をたたくフォルテピアノ（優しく、また大きく鳴るチェンバロという意味）が出現し、20世紀以降のモダンピアノに移行する。楽器製作の改良により、機能は格段に進歩した。狭い室内用の楽器から、大ホールに対応する音量が出せるようになり音域も5オクターブから、7オクターブ半以上対応可能となった。モーツァルトの時代とベートーベン後期のピアノ曲とは、作曲上の曲想の自由度がかなり違っていたのである。聴力の落ちていたベートーベンにとって、楽器



の音量は重要であったが、一方で弦の残響音は濁りを生み、それを打ち消すためにペダルが必要となった。名曲の舞台裏には楽器の進歩が必要不可欠であったのである。改めて大音量の楽器に馴れた耳に、繊細なチェンバロの音色は心地よい。この日のアンコール曲は、グノーがバッハの平均律クラヴィーア曲集第1巻・第1番ハ長調を原曲として作曲した、いかにもチェンバロらしい天上から流れ来るような名曲「アヴェ・マリア」であった。参加者の割れんばかりの拍手がいつまでも続いた。

『ドリフ仲本工事、交通事故で死去』のニュースが流れてきたのは2022年10月のことです。ドリフ世代の間としてはメンバー三人目の訃報ということでも悲しくショックな出来事でした。

「車と歩行者の事故は車の方が絶対に悪くなる」という声を聞くことがあります。過失割合に関するこの話、実際のところはどのようなのでしょうか。

過失割合が「0…100」の場合、治療費や慰謝料等のこちらの損害額を満額払ってもらえます。これが「20…80」

だと自分に生じた損害額の80%しか払ってもらえず、その一方で相手方に生じた損害額の20%を支払わねばなりません。

過失割合はある程度機械的に決まります。各当事者の乗り物、道路の形状、進行方向、

～プロムナード～

自動車×歩行者の交通事故の過失割合

士道法律事務所 弁護士 飯島充士

信号の有無等で場合分けした図入りの表があり、保険会社の示談交渉や裁判ではこの表で過失割合を決めるのです。ニュースから推測される仲本工事さんの事故状況を元に類似ケースとして「横断歩道

がない場所での横断、交差点またはその付近、広狭差のある道路、直進車との事故」の過失割合を検討してみま

しょう。このケースの歩行者側の基本過失は「20」です。ここから修正が入るのですがまず加算要素として、横断の途中での立ち止まり・後

歩行者側の過失はゼロになりません。

事故状況によっては歩行者側の過失が「70」近くになることも。この場合は歩行者が死亡したり重い後遺症を負ったりしても損害の3割程度しか補填してもらえないということになるのです。

交通量の多い道路でも危険な横断を試みる高齢者は時折見かけます。体力が衰えて少しでも楽を近道をしたくなるのでしょうか事故に遭ってしまえばいくら賠償金をもらっても割に合いません。大怪我をしてから「車の方が悪いんだ！」などと言っても怪我をする前の健康な状態に戻るわけではなく、死んでしまえば文句を言うこともできません。ましてそこから損害額が過失相殺されるとなれば残された家族の心境はいかばかりか。自身の体力や他者の配慮を過信せず交通ルールを守りましょう。

『老年看護学実習Ⅰ』
楠本病院での実習を終えて



私は、今回の楠本病院での実習で、療養されている患者さんの実際の状態や環境を知ることとで臨地実習の大切さを学びました。事前学習をして実習に臨みましたが、患者さんと対面して初めて皮膚の状態や腕の細さなどの患者さんのお体の状態を見ることができ、病室内の温度・音などの環境についても自分の感覚で感じる事ができました。患者さんへの援助や声掛けなども実際に経験することで学ぶことができました。

今回の実習では、実際に対面して関わることでしか得られない学びがあることを実感し、受け持たせて頂いた患者さんに感謝しています。また、指導して下さった病棟スタッフの皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。楠本病院での実習で得られた学びをこれからの学習に活かしていきます。

福山医師会 看護専門

伝統文化継承の試み

名誉院長
飯島崇史

き高松のスーパーでさぬき味噌を見つけたのでこれも買い置きました。蒸し

正月休みを利用して、長男一家が帰省した。4歳になる孫の目的は「福山のおばあちゃん」と遊ぶことと、お餅つきをすること。当家では伝統文化継承の観点から、正月の雑煮は自宅で臼と杵で搗いて作ることにしている。小生の出身が香川なので、雑煮は粒あんの餅で白味噌仕立て。具材には大根、ニンジン、かまぼこ、三つ葉または青海苔を入れ、濃厚な甘みが特徴で、他県の人は聞いただけで皆驚きの表情をされるが、ひとたび口にすると皆病みつきになる。勤務医時代、帰省しなければ県外では材料の入手が困難だ。まず粒あんの餡餅は売っていない。やむなく「御座候」でおはぎの時期に店頭に並ぶ餡を購入。冷凍保存しておく。つぎに白味噌は甘みの強いさぬき味噌が必要だが、香川県外ではどこにも売っていない。西京味噌を味噌で甘く溶いてみたが全く濃厚な甘みが足りない。あると

器は家にあるもので大丈夫。臼と杵だが、偶然訪れた広島居酒屋でお座敷餅つき用の木製、小型の臼と杵があることを知った。早速取り寄せ、以来愛用している。これがあるので孫たちは餅つきしたさに帰省したがるのかもしれない。そのほか、竹馬、凧揚げ、独楽回し、けん玉など昔のおもちゃは一通り用意した。振り返ってみれば昭和の時代にどの家庭にもあったもので、いつのまにか消滅したもの。のいかに多いことか。五徳、五右衛門風呂、火吹き竹、七輪、練炭、駄菓子屋、割烹着等々。伝統文化は、個々人の継承に関する心構えが十分でなければ、自然消滅するものだ。認識している。しかし、古いものがすべて良いわけではなく、大半は消滅もやむなしと思われるが、すべてではないと考えおく必要がある。永らく付き合ったものに対する愛着の心は大切にしたい。

行雲流水抄2

名誉院長 飯島は当紙「蒼生」に掲載したエッセイを中心に、福山市医師会報や経済紙などに寄稿した文章をまとめた『行雲流水抄』を2018年9月に出版しましたが、この度、その続編となる『行雲流水抄2』が完成しました。

今回も社会問題から食や酒、古典文学に漢詩、音楽、美術史、旅行や読書に至るまで、さまざまなテーマを組上にあげて料理しています。

購読を希望される方は病院窓口へお尋ねください。

行雲流水抄2